

短大特任教員教育研究業績書

平成 30 年 5 月 7 日

| | | | | |
|-------|----------|----------------|----------------------|----|
| 氏名 | ふりがな | 所属 | 職位 | 性別 |
| 山崎 輝美 | やまざき てるみ | 保育学科 通信教育課程 | 教授・准教授・講師・ 助教 | 女 |

担当科目名

造形表現 I

学 歴

| 和暦(西暦)年 月 | 事 項 | 学位 |
|------------------|-----------------------------------|-----------|
| 平成 21(2009)年 3 月 | 慶應義塾大学文学部通信課程卒業 | 学士(人間関係学) |
| 平成 21(2009)年 4 月 | 女子美術大学大学院 美術研究科芸術文化専攻美術史領域大学入学 | |
| 平成 23(2011)年 3 月 | 女子美術大学大学院 美術研究科芸術文化専攻美術史領域大学修了 | 修士(美術) |
| 平成 23(2011)年 4 月 | 東京藝術大学大学院 美術研究科美学専攻後期博士課程入学 | |
| 平成 29(2017)年 3 月 | 東京藝術大学大学院 美術研究科美学専攻後期博士課程単位取得満期退学 | |

職 歴

| 名 称 | 期 間 | 教育内容又は業務内容 |
|-------------|--------------------------|--------------|
| 神奈川県立湘南養護学校 | 平成元年 4 月～平成 2 年 3 月 | 中学部 |
| 秦野市公立中学校 | 平成 2 年 4 月～平成 23 年 3 月 | 美術科、特別支援級 |
| 県立平塚ろう学校 | 平成 25 年 12 月～平成 26 年 3 月 | 小学部、美術科 |
| 大和市公立中学校 | 平成 26 年 4 月～平成 30 年 3 月 | 美術科、特別支援級 |
| 小田原短期大学 | 平成 30 年 4 月～現在に至る | 保育科通信教育課程 助教 |

所 属 学 会 等

| 名 称 | 活動期間 | 活動内容(役職等の活動を含む) |
|-----------|----------------------|-----------------|
| 美学会 | 平成 23 年 4 月入会(現在に至る) | 美学会参加 |
| 日本教育思想史学会 | 平成 24 年 4 月入会(現在に至る) | 日本教育思想史学会参加 |
| 日本ディルタイ協会 | 平成 26 年 7 月入会(現在に至る) | 日本ディルタイ協会参加 |
| 日本ヘーゲル学会 | 平成 28 年 1 月入会(現在に至る) | 日本ヘーゲル学会参加 |

社 会 活 動 等

| 名 称 | 活動期間 | 活 動 内 容 |
|----------|----------------------|----------------|
| ハイデガー研究会 | 平成 23 年 9 月入会(現在に至る) | 研究会に参加 |
| 二科展神奈川支部 | 平成 26 年 9 月入会(現在に至る) | 毎年神奈川支部展に作品を出展 |

担当教科目に関する資格・免許等

| 名 称 | 取得年月 | 取 得 機 関 |
|--------------------------------------|-------------|-----------|
| 中学校教諭二級免許状美術 (昭 6 1 中 2 第 2405 号) | 昭和 61 年 3 月 | 東京都教育委員会 |
| 養護学校教諭一種免許状 (平 5 養学一種第 1056 号) | 平成 6 年 3 月 | 神奈川県教育委員会 |
| 聾学校教諭二種免許状 (平 6 聾二種第 0007 号) | 平成 6 年 6 月 | 神奈川県教育委員会 |
| 中学校教諭一種免許状美術 (平 2 2 中一第 93 号) | 平成 22 年 7 月 | 神奈川県教育委員会 |
| 中学校教諭専修免許状美術 (平 2 2 中専修第 85 号) | 平成 23 年 3 月 | 神奈川県教育委員会 |
| 学芸員資格 | 平成 23 年 3 月 | 女子美術大学 |

| 研究実績に関する事項 | | | | |
|--|--------|-----------|--------------------|---|
| 代表的な著書、論文等の名称 | 単著共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称 | 概要 |
| (著書) なし | | | | |
| (学術論文) 1 『なぜ美術教育が必要なのか ―明治、大正期の芸術教育論争を通して―』 | 単 | 平成21年3月 | 慶應義塾大学卒業論文 | 主に大正期に盛んであった芸術教育論争は、今日再び考察するに値するものである。本論は、明治期(文明開化と共に学制が始まり図画教育も始まった)大正期までを概観し、試行錯誤と欧米の芸術理論の導入など、図画教育の変遷について述べた。そして芸術とは何か、またその必要性が問われる中、教育における芸術の価値と必要性についても論争が繰り広げられ、その主なものをまとめ考察した。 pp.1-30 |
| 2 『明治時代における欧米の美術教育の受容と「模倣」について ―臨画教育再考―』 | 単 | 平成23年3月 | 女子美術大学修士論文 | 本論は、図画教育を中心に理想と現実、社会の思惑や制度との関係について図画の教科書の変遷を中心に考察した。文明開化後、社会の価値観が変わる中、学制の施行とともに学校教育、そして図画教育も様々な議論とともに整備されはじめた。「どのような方法で図画を学ばせるのか」というテーマは、「模倣」と関係が深い。芸術をどう捉え表現するかというテーマにも関わる点について考察をした。 pp.1-45 |
| 3 詩における形象と抽象概念について ―ヘルダーリンの後期抒情詩から― | 単 | 平成26年4月 | 女子美術大学研究紀要第44号 | 本論は、ひとりの芸術家としてのヘルダーリンの詩作(詩から生じる抽象概念の表現)が、後の抽象絵画が生まれる先駆けであるということであることを述べる。ヘルダーリンの詩(後期作品)の構造の特徴であるパラタクシス(並列構造)をもとに、イメージを重ね合わせることから生じる抽象概念について述べる。 pp.26-33 |
| 4 ヘルダーリンの哲学思考と詩作について ―カントの構想力(Einbildungskraft)における「意識」の問題を通して― | 単 | 平成27年4月 | 女子美術大学研究紀要第45号 | 本論は、ヘルダーリンの詩作における哲学的思考、とりわけ構想力 Einbildungskraft(想像力)について、主にカントからの影響を考察するものである。1770年生れのヘルダーリンが影響を受けた人物や時代背景は様々である。特にドイツ観念論におけるカントの存在は、ヘルダーリンの哲学的思考において避けて通ることはできないと考える。 pp.10-16 |
| 5 ヘルダーリンの『オイディプスへの注解』における悲劇の意味 ―「中間休止」の概念を媒介にして― | 単 | 平成30年4月 | 女子美術大学研究紀要第48号 | 本論は、ヘルダーリンの『オイディプスへの注解』の中間休止について、述べるものである。ヘルダーリンは、悲劇のリズミカルな表象の中で、中間休止による中断を行うことによって、「表象そのものが現れる」と述べている。表象そのものがあらわれるとは、いったいどういうことなのかについて考察する。 まずヘルダーリンの悲劇論について言及する。次に2つの不等なもの結びつける中間とは何か、中間の概念について考察する。さらに、中間の外側にあるものについて、修辞学的に分析を試みる。なぜなら、彼は悲劇の意味はパラドックスから理解するのが容易であると述べているからである。最後に時間の概念について考察を試みる。ジル・ドゥルーズよれば、中間休止によって、2つの不等な時間や出来事が呼び集められ、一つの総体となり、一つのイメージを形成するという。 pp.14-19 |
| <学会発表> 1. 日本ディルタイ協会ヘルダーリンとレッシング、2人の想像力と表現について ―ディルタイの『体験と創作』から― | | 平成27年7月 | 大阪教育大学 | 本研究の目的は、ディルタイの芸術論におけるヘルダーリンの役割を明らかにすることである。ディルタイは、『体験と創作』初版の序文冒頭で「私は、一種の内的連関を形づくる3つの論文を選び、その連関を完全なものにするために、ヘルダーリン論を新たに加えた」と述べている。ディルタイはなぜヘルダーリン論を加えたのか。本発表は、レッシングが考察した芸術理論と、ヘルダーリンの作品や理論から考察をする。 |

| | | | | |
|---|----------|----------------------|------------------------------|---|
| 2. 美学会 ヘルダーリンとベ ートーヴェン ー2人の思想とロマ ン主義、1790年代を 中心にー | | 平成27年7月 | 早稲田大学 | 本発表は、ヘルダーリンとベートーヴェンの2人の思想 （「主観と言語の一致」に関する美学理論）の共通点を考 察するものである。同じ1770年生れの2人は、ヘーゲル らと共に同時代を生きた芸術家である。またヘルダーリン は、哲学者として20世紀に高く評価にされるに至った。 本発表はヘルダーリンとベートーヴェンに共通する古典 主義の時代から潜在的にあったと考えられる思想を明ら かにしようと試みるものである。 |
| (その他) | | | | |
| <制作活動> | | | | |
| 1. 藝大アートプラザ大賞展 入選 | 2011年11月 | 東京藝術大学「藝大ア ートプラザ」 | 《THE DEEP WATER》油絵 (F3号) | |
| 2. 女子美同窓会展 神奈川支部展 | 2012年 5月 | 茅ヶ崎市美術館 | 《みずたまり》油絵 (SM号) | |
| 3. 藝大アートプラザ大賞展 入選 | 2012年11月 | 東京藝術大学「藝大ア ートプラザ」 | 《睡蓮》油絵 (SM号) | |
| 4. 二科展 入選 | 2013年 9月 | 東京国立新美術館 | 《Vorstellung (表象)》油絵 (F100号) | |
| 5. 藝大アートプラザ大賞展 入選 | 2013年11月 | 東京藝術大学「藝大ア ートプラザ」 | 《海》油絵 (SM号) | |
| 6. 第2回横浜音とアートの祭 典 | 2014年 1月 | 横浜バロック関内サロン | 《雲と青》油絵 (F15号) | |
| 7. 二科展 神奈川支部展 | 2014年11月 | 神奈川県民ホール | 《波のない海》油絵 (F100号) | |
| 8. 第2回新春ミニアチャー ル展 | 2015年 1月 | ギャラリーぶたのしっぽ | 《雲と青I・II》油絵 (SM号) | |
| 9. 第3回横浜音とアートの祭 典 | 2015年 1月 | 横浜バロック関内サロン | 《薔薇の花》油絵 (4号) | |
| 10. ねこ展 | 2015年 2月 | ギャラリーぶたのしっぽ | 《アビシニアン》油絵 (F3号) 他1点 | |
| 11. 個展 (1) | 2015年 3月 | ギャラリーぶたのしっぽ | 《薔薇の花》他計12点 | |
| 12. 二科展 神奈川支部展 | 2015年 5月 | 横浜市民ギャラリー | 《海》油絵 (F100号) | |
| 13. 初夏の大磯コレクション 展 | 2015年 6月 | ギャラリーぶたのしっぽ | 《ひまわり》油絵 (F4号) 他1点 | |
| 14. 女子美同窓会展 神奈川支部展 | 2015年 6月 | 茅ヶ崎市市民ギャラリー | 《海》油絵 (F100号) | |
| 15. 個展 (2) | 2015年 7月 | Gallery 銀座一丁目 | 《ひまわり》他計12点 | |
| 16. ねこ展 | 2016年 1月 | ギャラリーぶたのしっぽ | 《シクラメン》アクリル画 (0号) 2点 | |
| 17. 第3回新春ミニアチャー ル展 | 2016年 2月 | ギャラリーぶたのしっぽ | 《ねこ》油絵 (F0号) | |
| 18. 個展 (3) | 2016年 3月 | ギャラリーぶたのしっぽ | 《潮騒I II III》(F80号)他計7点 | |
| 19. 二科展 神奈川支部展 | 2016年 5月 | 横浜市民ギャラリー | 《想》油絵 80号 | |
| 20. 第4回新春ミニアチャー ル展 | 2017年 1月 | ギャラリーぶたのしっぽ | 《Hasu》アクリル画 (0号) 2点 | |
| 21. 二科展 神奈川支部展 | 2017年 5月 | 横浜市民ギャラリー | 《潮騒》油絵 80号 | |
| 22. 二科展 入選 | 2017年 9月 | 東京国立新美術館 | 《潮騒μ》油絵 80号 | |
| 23. 第5回新春ミニアチャー ル展 | 2018年 1月 | ギャラリーぶたのしっぽ | 《HANA》アクリル画 (0号) 2点 | |
| 24. 二科展 神奈川支部展 | 2018年 5月 | 横浜市民ギャラリー | 《未来》油絵 80号 | |